



佐々木照子 さん

ささきてるこ／大正10年生／下関市在住／鍛冶屋町区出身／旧姓磯野／下関市民学級水彩画講師

絵は私の人生のすべて

—ふるさとながと・こんにちわ—

故郷を出て50年。何時も長門の海の美しさを夢に見る。小学校卒業後中村高女を経て女子師範二部卒業、母校の仙崎小学校の先生として五年生を受け持つ、其の組中の山本伸一君は今板持一区に健在で時に逢いに来る。戦時中の学校は楽しくなかった。兄の戦死、薬剤師を志して上京、東京では毎日空襲で勉強どころではなかった。亡き母の要望で3年で帰仙、結婚の為下関に行く、当時教員不足で日新中学校から懇請され美術の教師になる、勤続30年その内20年は日新中学校、其の間校長や諸先生方の応援で市美展に出品、市長、議長、教育長賞、フランス・ミレー展に入選、絵を書くことが私の人生そのものになった。下関

港を見ていると、仙崎の海が思い出され絵の題材として描き続ける。物産センターの「豊漁の兆」は青海島の海に魚が溢れ鴉が飛び交う姿を描いたもの、先日同級会で帰仙した時海と魚の匂いと、元気の出る赤と黄色が欲しいなーアと思った。然しルネッサながと、仙崎のみずゞ等々、これから益々の発展を願っています。好きな故郷ですもの。



▲物産センター2階に展示の「豊漁の兆」

心の健康が第一

—達者です—



杉原政次 さん

すぎはらまさじ／83歳／上郷区

「子どもは5人（男1人女4人）いますが、嫁いだり勤めたりで、家には妻と2人暮らしています。下関の会社（ニチモウ）を33年間勤め定年退職して今は家の田（7反）の仕事をするのが日課です。農業も機械化が進み大して忙しいと思いません。合間に郷老人クラブ、軍人恩給受給者長門支部のお世話をしています。」と言われる杉原さん。軍隊には長く勤めたとの事、功績として金鶏勲章が和室に飾られています。



▲自宅で4女のお孫さんと

「吉田松陰先生の句（親思う、心に優る親心、今日のおとずれ、何と聞くらん。）です。」とか。最後健康についてお聞きすると、「心の健康が第一です。不平、不満、人の悪口が嫌い。ざつくばらんがいいですね。おかげで、心が明るく朗らかな毎日を送っています。」と語られました。